

パフォーマンス一覧

Index	銘柄数	時価総額 (10億円)	パフォーマンス実績 (%) (日本円、トータルリターン)							配当 利回り (%)
			1カ月	3カ月	6カ月	年初来	1年	3年	5年	
日本市場										
FTSE Japan Index	493	390,466.10	2.73	6.35	6.55	6.55	31.93	33.96	130.23	1.96
FTSE Japan Value Index	493	189,231.58	3.40	4.20	3.61	3.61	36.79	30.90	116.83	2.56
FTSE Japan Growth Index	493	201,234.52	2.10	8.44	9.46	9.46	27.24	36.85	143.99	1.40
FTSE GWA Japan Index	493	-	2.85	5.58	5.24	5.24	37.28	32.14	126.94	2.20
FTSE RAFI Japan Index	270	-	3.38	5.15	5.54	5.54	38.17	35.10	135.24	2.23
FTSE EDHEC Japan Index	493	-	2.72	7.74	9.28	9.28	30.78	50.52	153.35	1.66
FTSE Japan Minimum Variance Index	289	-	2.08	8.51	10.42	10.42	30.04	60.24	172.88	1.79
グローバル市場										
FTSE Developed Index	2,096	4,217,789.21	2.05	5.28	7.36	7.36	30.74	31.68	148.17	2.39
FTSE Kaigai Index	1,603	3,827,323.11	1.98	5.17	7.44	7.44	30.62	31.46	150.01	2.44
FTSE GWA Kaigai Index	1,603	-	2.26	5.41	7.50	7.50	34.59	28.08	150.94	2.71
FTSE RAFI Kaigai 1000 Index	1,025	-	2.08	4.42	4.92	4.92	32.77	23.53	149.09	3.08
FTSE DBI Kaigai Index	1,603	-	1.55	4.82	6.60	6.60	23.97	24.27	135.55	2.84
FTSE EDHEC Developed ex Japan (Kaigai) Index	1,603	-	1.78	5.50	7.59	7.59	28.96	36.22	167.48	2.16
FTSE Developed Minimum Variance Index	1,351	4,054,817.32	1.92	6.16	8.64	8.64	24.97	41.03	155.17	2.27
エマージング市場										
FTSE Emerging Index	990	428,494.78	2.18	4.99	10.56	10.56	32.05	15.69	73.64	2.86
FTSE GWA Emerging Index	990	-	2.09	3.23	7.24	7.24	34.41	15.88	71.12	3.51
FTSE RAFI Emerging Index	362	-	1.51	2.04	5.71	5.71	38.57	14.24	64.04	3.54
FTSE EDHEC Emerging Index	990	-	1.96	3.85	10.10	10.10	27.62	16.01	77.26	3.02
FTSE DBI All Emerging Index	990	-	2.45	5.78	12.30	12.30	30.13	13.81	63.97	2.84
オルタナティブ市場										
FTSE EPRA/NAREIT Developed Index	335	159,258.16	2.50	3.87	1.51	1.51	10.77	26.79	110.42	3.79
FTSE EPRA/NAREIT Developed REITS Index	266	127,653.60	2.68	2.51	-0.89	-0.89	7.24	29.93	111.92	4.09
FTSE EPRA/NAREIT Emerging Index	147	18,301.98	3.48	11.09	21.81	21.81	34.86	35.43	89.69	3.68
FTSE Global Core Infrastructure Index	227	214,918.00	0.75	5.05	7.28	7.28	20.43	29.83	130.45	3.15
FTSE Developed Core Infrastructure Index	149	201,649.06	0.54	5.17	6.96	6.96	20.01	30.41	133.81	3.18
FTSE Emerging Core Infrastructure Index	78	13,268.94	4.16	3.04	12.49	12.49	27.61	18.53	75.63	2.70

データ出典: FTSE Russell 2017年6月30日付

指数に関するご質問・ご相談は、右記までお気軽にお問い合わせください。 FTSE 日本オフィス TEL:03-3581-2811 E-mail:Japan@ftse.com
詳細に関しては www.ftserussell.com をご参照ください

© 2017 London Stock Exchange Group plcおよび関連グループ事業体(「LSEグループ」)。LSEグループには、(1) FTSE International Limited(「FTSE」)、(2) Frank Russell Company(「Russell」)、(3) FTSE TMX Global Debt Capital Markets IncおよびFTSE TMX Global Debt Capital Markets Limited(合わせて「FTSE TMX」といいます)ならびに(4) MTSNext Limited(「MTSNext」)が含まれます。無断複製・転載を禁じます。

FTSE Russell®は、FTSE, Russell, FTSE TMXおよびMTS Next Limitedの商号です。ここで使用される「FTSE®」、「Russell®」、「FTSE Russell®」、「MTS®」、「FTSE TMX®」、「FTSE4Good®」、「ICB®」およびその他の商標ならびにサービスマーク(登録されているか否かは問いません)はすべて、LSEグループの該当メンバー会社またはそのそれぞれのライセンサーによって所有またはライセンスを供与されているか、FTSE, Russell, MTSNext, FTSE TMXが所有、またはそのライセンスに基づいて使用されています。

すべての情報は、情報提供のみを目的として提供されています。本刊行物に掲載されているすべての情報の正確性には万全を期しておりますが、LSEグループのいかなるメンバー会社、そのそれぞれの取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも、本刊行物または本刊行物に含まれるいかなる情報、データの使用による誤りまたは損害に対し一切の責任を負いません。

LSEグループのいかなるメンバー会社、そのそれぞれの取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも、明示・黙示を問わず、インデックスを使用した結果や、[インデックス]が使用されるあらゆる特定目的へのそれらの適合性についていかなる要求、予測、補償、表明も行いません。

LSEグループのいかなるメンバー会社、そのそれぞれの取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも投資アドバイスを提供しません。本文書いかなる内容も、金融や投資の助言を構成しません。LSEグループのいかなるメンバー会社、取締役、役員、従業員、パートナーまたはライセンサーも、いかなる資産への投資の推奨度に関して一切の表明を行いません。このような資産への投資における決定は、ここに記載されるいかなる情報にも依頼すべきではありません。インデックスに直接投資することはできません。インデックスへのある資産の編入は、その資産の購入、売却または保持を推奨するものではありません。ライセンスされた専門家から法律、税務、投資についての助言を得ることなく、本刊行物に記載される一般情報を実行しないでください。

この情報のいかなる部分も、LSEグループの該当メンバー会社の書面による事前の許可なく、複製、情報検索システムへの蓄積、電子・機械・写真複製・録音など何らかの方法による転送を行わないでください。LSEグループのインデックスデータの使用および販売、ならびに金融商品を作成するためのデータの使用には、FTSE, Russell, FTSE TMX, MTSNextおよび/またはそのそれぞれのライセンサーのライセンスが必要です。

過去のパフォーマンスは将来の結果を保証するものではありません。チャートやグラフは、例示のみを目的として提供されています。提示されるインデックスリターンは、必ずしも投資可能資産の実際の取引の結果を示しません。一部の提示リターンは検証試験でのパフォーマンスを反映していることがあります。検証試験されたパフォーマンスは、実際のパフォーマンスではなく、仮想のもので、検証試験の計算は、インデックスの正式公開時点で有効な方法に基づいています。ただし、検証試験データは事後考察によるインデックス方法論の適用を反映していることがあり、インデックスの計算は、インデックスの計算に使用される基本的な経済データの改訂に基づき月ごとに変更されることがあります。

本刊行物には将来の見通しに関する記述が含まれることがあります。これらは最終的に不正確と判明しうる、将来の状況に関する多数の仮定に基づきます。このような将来の見通しに関する記述は、リスクや不確実性をはらむことがあり、さまざまな要因に影響されうるため、実際の結果は将来の見通しに関する記述と大きく異なる可能性があります。将来の見通しに関する記述は、作成時点での状況に基づくものであり、LSEグループのいかなるメンバー会社またはそのライセンサーも、将来の見通しに関する記述の更新に一切の義務を負わず、またこれを引き受けません。



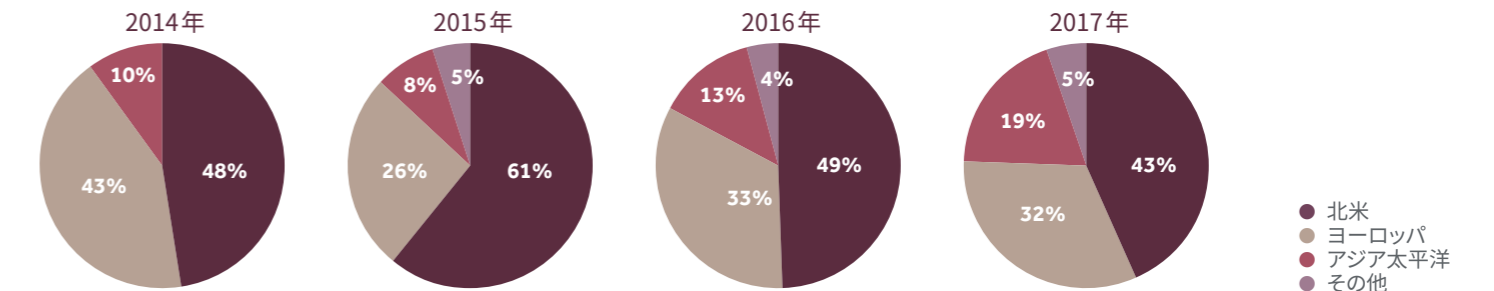
スマートベータ採用率が記録更新

FTSE Russellは今日、既存のスマートベータ指数戦略に資産を配分する機関投資家の比率は、2016年度の36%から2017年度は10ポイント増加し、過去最高の46%に達したと発表しました。これは、FTSE Russellグローバル調査チームが実施した第4回世界機関投資家市場調査「スマートベータ:2017年度アセットオーナー調査」*に基づくものです。この調査結果は、過去3年間に見られたスマートベータへの関心と採用の増加傾向が2017年も持続していることを示唆しています。アセットオーナーによるスマートベータ採用率を地域別に見ると、ヨーロッパが60%と北米及びアジア太平洋を引き続き上回っています。スマートベータ採用の増加率が最も高かったのは、運用資産残高(AUM)別で10億~100億ドルのアセットオーナー層でした。ちなみに、2016年度の調査では、スマート

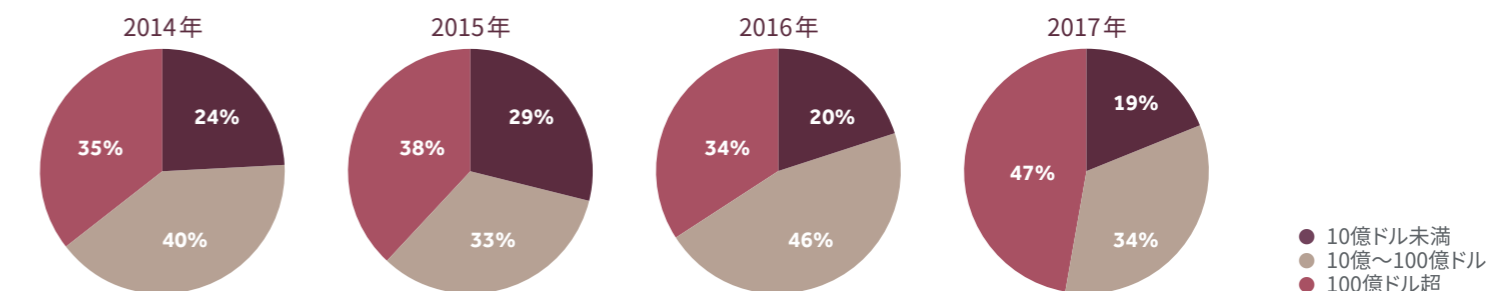
*Smart Beta: 2017 Global Survey Findings from Asset Owners

回答者の内訳:地域別(上)と運用資産残高別(下)

地域別



運用資産残高別



JULY 2017
FTSE RUSSELL NEWSLETTER

機関投資家のニーズに応える
FTSE Russellの革新的な
インデックス、シリーズを
ベースとした情報発信レター

ベータ採用の伸び率が最も高かったのは、AUMが10億ドル未満のアセットオーナー層でした。

スマートベータへの関心と採用

過去3年間に見られたスマートベータへの関心と採用の増加傾向は2017年も持続しています。FTSE Russell調査において、既存のスマートベータ指数戦略に資産を配分すると答

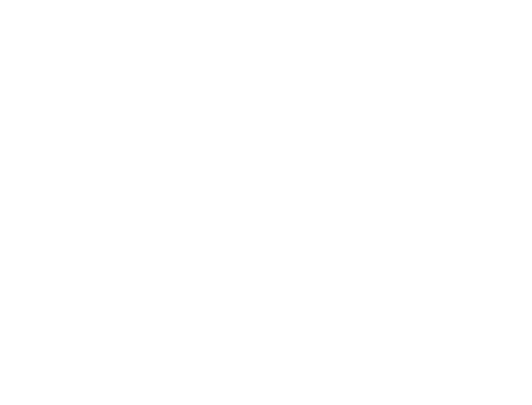
スマートベータ戦略に資産を配分しているという回答が増えたことで、スマートベータの採用を現在検討中、及び以前に検討したが採用をしないと決定したという回答が相対的に減少しました。2017年度調査では、資産配分には至っていないものの、スマートベータについて現在評価中と答えたアセットオーナーは25%でした。この結果は、将来、スマートベータ運用に踏み切る可能性があるアセットオーナーの層が依然として健全な水準であることを示しています。以前にスマートベータについて評価してみたが、導入見送りを決定したという回答は過去最低の9%でした。

スマートベータの採用はグローバル現象

スマートベータの採用の増加は、調査対象となったヨーロッパ、北米、アジア太平洋の3主要地域で広く見られます。スマートベータの採用率で見ると、ヨーロッパが60%で、北米及びアジア太平洋を上回っています。2017年度の北米のアセットオーナー間における採用率は、ヨーロッパの2014年度、2015年度の水準にほぼ並びました。アジア太平洋の採用率はヨーロッパと北米の中間で推移しています。

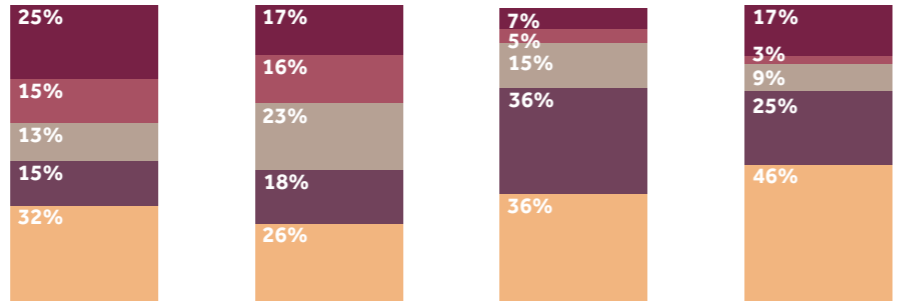
スマートベータを採用する理由

スマートベータ採用の理由としては、「運用益の拡大」及び「リスクの軽減」が引き続き主要な目的となっています。「コスト削減」は主要な目的として重要度を高め続けていますが、そのことはアクティブ戦略の代わりにスマートベータ戦略の利用が増加傾向にあることを示唆しています。



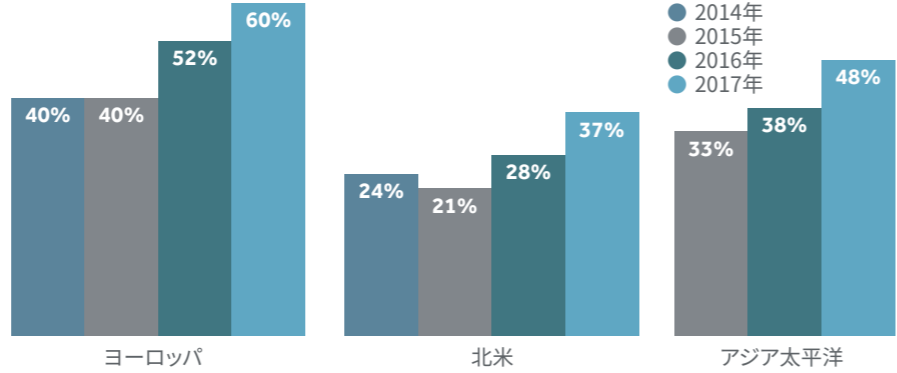
えた機関投資家の比率は、2016年度の36%から2017年度は過去最高の46%に達しました。この伸びは、2016年度調査でスマートベータの採用を検討中と答えたアセットオーナーが相当数に上っていたことから、予想通りの流れと言えます。

スマートベータ戦略の利用状況



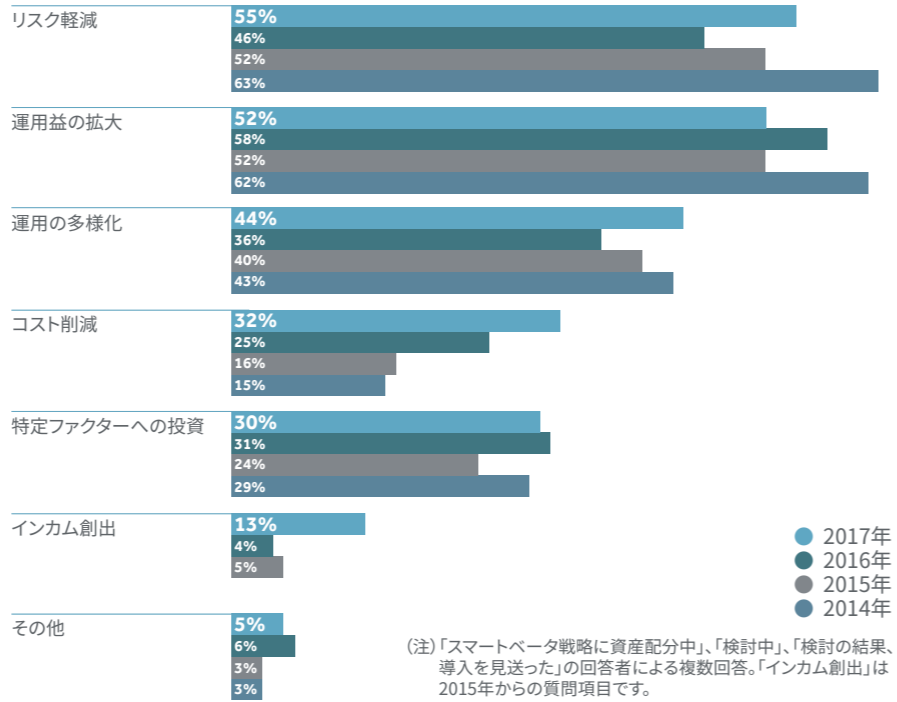
● 既存資産配分なし。今後1年半の間に検討する予定なし。
 ● 既存資産配分なし。今後1年半の間に検討する予定。
 ● 検討の結果、導入を見送った。
 ● 既存資産配分なし。現在、検討中。
 ● スマートベータ戦略に資産配分中。
 (注) FTSE Russellは、「資産配分中」の回答率が2015年に下がったのは調査サンプルの違いによるものと判断しています。

スマートベータ採用状況(地域別)



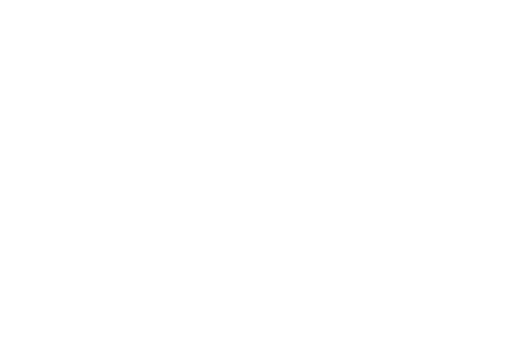
(注) 「資産配分中」の回答者が対象です。

スマートベータ戦略の利用状況



株式スマートベータ戦略

スマートベータ戦略で、最も広く利用されるとともに検討の対象として挙げられる種類は「マルチファクター」戦略です。シングルファクターのスマートベータ戦略で最も人気が高いのは、「低ボラティリティ」及び「バリュー」です。

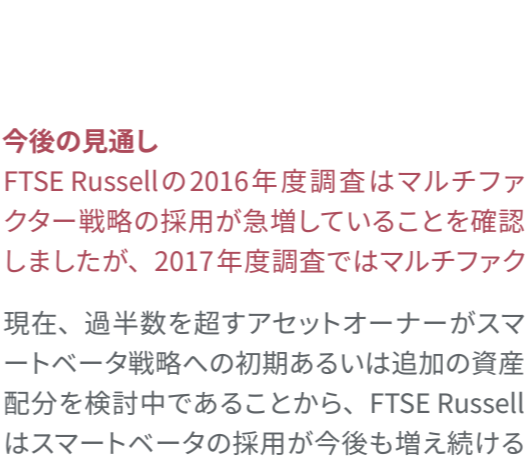


債券スマートベータ戦略

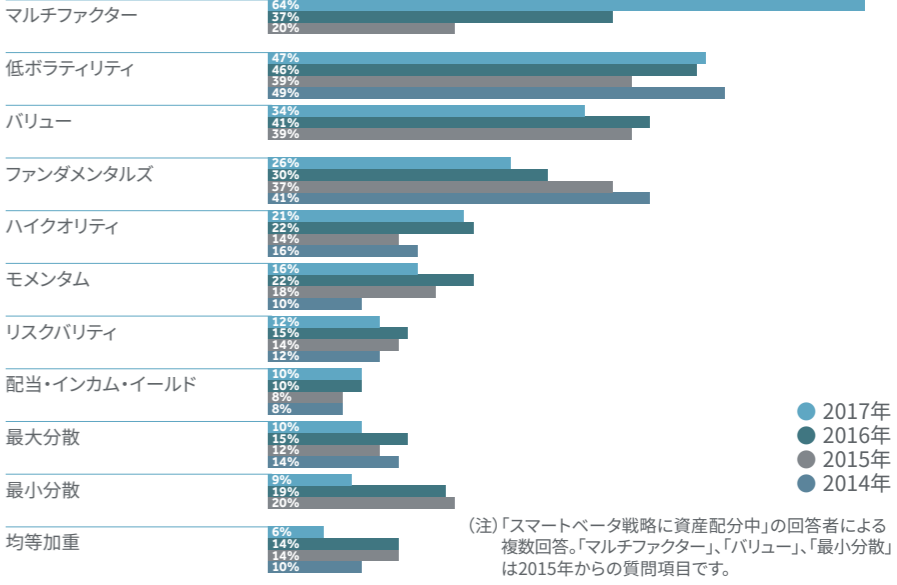
債券スマートベータ戦略の検討及び採用は未だに初期段階にあり、大多数のアセットオーナーは債券スマートベータ戦略を検討するには至っていません。2017年度調査では債券スマートベータ戦略を採用していると答えたアセットオーナーは7%でした。スマートベータ戦略について、現在検討中または今後1年半の間に検討を予定しているという回答は20%でした。

スマートベータ戦略へのESG投資基準の導入

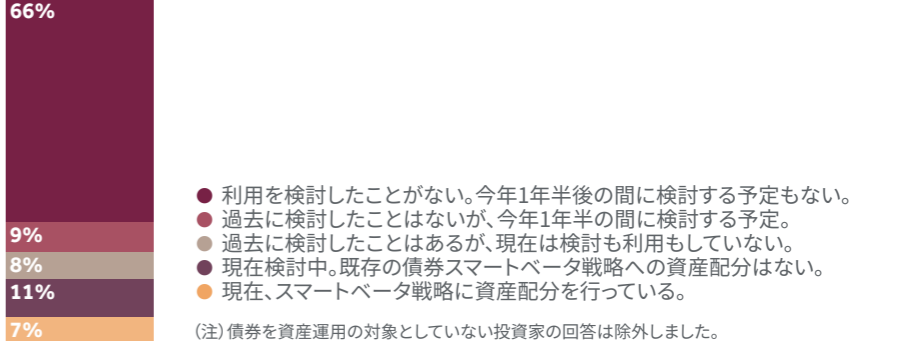
ESG(環境・社会・ガバナンス)投資基準をスマートベータ戦略に導入することへの関心が増加傾向にあります。その傾向は、地域別ではヨーロッパ、アセットオーナーのAUM規模別では100億ドル超の層で顕著です。スマートベータ戦略とサステナビリティ投資戦略を組み合わせたスマートサステナビリティ戦略を利用する主な動機については、規制あるいは社会・倫理上の要請からではなく、投資主導であることが調査からわかりました。



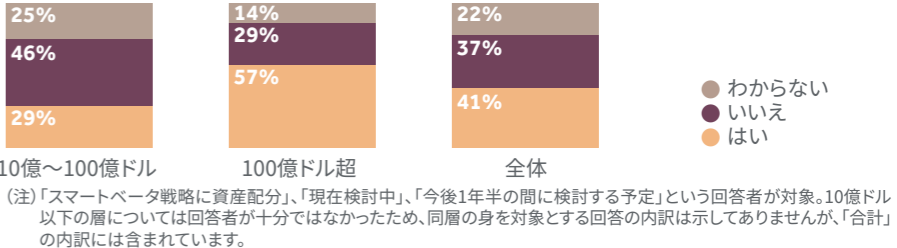
使用中のスマートベータ戦略(指数)の種類



債券スマートベータ戦略の利用状況

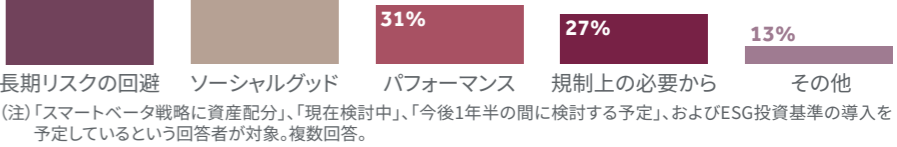


スマートベータ戦略へのESG投資基準の導入予定



(注) 「スマートベータ戦略に資産配分」、「現在検討中」、「今後1年半の間に検討する予定」という回答者が対象。10億ドル以下の層については回答者が十分ではなかったため、同層の身を対象とする回答の内訳は示してありませんが、「合計」の内訳には含まれています。

ESG投資の動機



ター戦略が最も人気が高い株式スマートベータ戦略となりました。この流れは、世界の全地域においてスマートベータの採用が増加していることと符合します。特にAUM規模が10億~100億ドルの層で高い伸びが見られます。

と予想しています。FTSE Russellはまた、マルチファクター戦略に続いて増加が予想されるのは、ESG投資基準とスマートベータ戦略を組み合わせたスマートサステナビリティ戦略で、その傾向はヨーロッパのAUM規模が100億ドル超の層で特に強まると判断しています。